

## 会議結果

会議名	第2回西尾市総合計画審議会			
日時	平成29年11月21日(火) 午前10時～正午			
場所	西尾市役所会議棟第4会議室			
出席者	規程	区分	団体名	氏名
	1号委員	教育委員会	西尾市教育委員会	杉浦 義浩
	2号委員	農業委員会	西尾市農業委員会	石川喜久雄
	3号委員	公共的団体	西尾市体育協会	辻村 和敏
			西尾文化協会	榊原 康三
			西尾市子ども会育成連絡協議会	植田 康裕
			西尾市障害者福祉団体連合会	中村 行男
			西尾市社会福祉協議会	和田 知之
			西尾市老人クラブ連合会	井関 公宏
			西尾商工会議所	杉田 芳男
			西三河農業協同組合	名倉 正裕
			西尾市観光協会	鳥山 欽示
			ばらネット	山崎 裕子
	代表町内会長	中野 喜明		
	4号委員	知識経験者	日本福祉大学	千頭 聡
	事務局		企画部長	近藤 芳英
			企画部次長	宮地 将人
企画部企画政策課長			齋藤 武雄	
企画部企画政策課長補佐			本田 正浩	
企画部企画政策課主査			加藤 弘之	
企画部企画政策課主事			鈴木 恵	
欠席者	3号委員	公共的団体	西尾市医師会	山本 宏明
			西三河漁業協同組合	石川 真二
			西尾青年会議所	河合 恒一
傍聴者	—			

議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本計画の改正案について</li> <li>2 総合計画審議会委員等の意見対応について</li> <li>3 市民モニターの意見対応について</li> <li>4 「土地利用構想のイメージ」について</li> <li>5 その他</li> </ol>
会議結果	<p>(千頭会長)</p> <p>○議題の順番を替えて「4 土地利用構想のイメージについて」から審議していただきます。</p> <p>○左側の方の案を示されて、将来的に構想を含めていきたいということであるが、何かコメント等がありませんか。</p> <p>(石川委員)</p> <p>○農業委員会は農地を守る立場であるが、市の構想は分からないわけではないが、質問書などにも出しているが農業振興のこと、大半が優良農地ばかりである。</p> <p>○新規、拡大の部分は、一番の優良農地であり、むやみに計画として示すのは、農家を2から3軒つぶすイメージである。回答の中に、農業振興については明確なイメージがなく、この文章では納得することができない。農業振興なり対策をもう少し考えてほしい。農地をつぶすのであれば、農業振興対策をしてもらわないと、地主は良いが、ここで生活している人たちをつぶすような感じを受ける。</p> <p>○開発が構想されている地区は、ほとんど優良農地であり、つぶしていくことは、そこでがんばってきた人にあなたは農業をやめなさいということになるのではないか。もっと対策を考えてほしい。</p> <p>(事務局)</p> <p>○当然、こういったところの農地を企業用地、工業用地として変えていく場合は、当然、周辺の農地への影響、地主、生活されている方へ市の立場として最大限配慮していくことを考えている。</p> <p>○石川委員のご指摘のように、兼ね合いの中で農地をつぶすのであれば、それに対する農業振興を考えていくことが必要と考えているので、今日示した施策の中でももう少し踏み込むべきことがあれば、今一度の農林水産課と協議して加えることはないか考えていきたい。</p> <p>○今日のご意見は企業誘致課にも伝えて、企業誘致をする際にも周辺への影響を最大限なくしていくように配慮していきたいと考えている。</p> <p>(千頭会長)</p> <p>○かなり農振農用地が想定されている。</p> <p>(石川委員)</p> <p>○大半が優良農地ばかりであり、農業を担う地域のことに密接にかかわる。</p> <p>(千頭会長)</p> <p>○県の会議で委員を務めているが、西尾市内でも農業はがんばっておられる。</p>

(杉浦委員)

- 土地利用構想の全体イメージは、今のご指摘の問題点を含めて、理解することができる。
- 教育委員会の立場では、都市計画の住宅の区画整理が一部偏って進んでおり、そのエリアのインフラとあっていない状況が深刻な問題となっている。
- 矢田小校区の場合は校舎を作っても足りない、敷地も狭くなっており運動場も道路を挟んで反対側である。あと数年すると千人の学校となる。都市計画において都市の発展も重要であるが、そこにあるインフラを考えて計画してほしい。学校のキャパがあるならそれを考えて進めてほしい。
- 配慮がないとどんどん校舎をつくっていったら、2、30年後に子どもが減少することにもなる。今、現在、校舎が空いている学校もたくさんあり、特別学級で使っているが空いている。反面、とても作っても足りない学校もある。無計画な感じがしており、市は重々インフラの関係は分かっているので、なぜ、横のつながりで調整されないのか。
- 前回もご意見があったなぜ横のつながりががないのか、強く言いたい。もしくは、どうしても偏った都市計画になった場合には校区の再編も含めて取組まないと偏ると危惧している。

(千頭会長)

- ほかにはございますか。

(杉田委員)

- 優良農地の工業化は、会議所でも非常に論議がある。地元の輸送関連の企業については、極端な話ではEV化が進み、エンジンがいなくなるのではとの話もある。本当に優良農地や自然をつぶしてまでも、工業団地が必要なのかということ再度考えていただきたい。海外へのシフトは避けられない話であり、工業基盤そのものが大変革していくだろう。
- 2020年には中国は一切エンジンについてあいならんと言っており、ヨーロッパもガソリン車はいけないと。西尾に占めるエンジンに係る自動車産業は非常に大きいので、その中で優良農地をつぶしてまでの工業用地が必要なのか。
- 2020年は近未来であり情報を集めてほしい。一度つぶしてしまった農地や自然は何ともならないので、斟酌いただきたい。

(鳥山委員)

- 市内の自動車関連会社で業績が良い会社で、近年トマトを4棟、イチゴのハウスも作っているところがある。その社長は、自動車は先細りになるであろうということで、今のうちに新しい産業として農業をトライしていくと明言している。
- 長期計画としては、予想がつかない時代としても今まで来ている流れがあるので、それを踏まえた形で計画する必要がある。昔のままの延長線ではない。産業と書いてあるので、工業立地とは書いていないが、自動車産業関連一辺倒の考え方では将来的にはなしえないと考えた方が賢明である。

(事務局)

- 矢田小学校については議会でも議論されており、私どもも承知している。今日、強い意見が出たことについて教育委員会の方にも、学区の再編を含めた方向などについて伝えていく。
- 工業では自動車はE V化の流れの中で、将来土地が必要か、そういったことも含めて考えていかなければならない。工業のみにとらわれずに考えていかなければならない。
- 実際にはここでは位置づけはあるが、当面の5か年の中での考え方を整理する中で、総合計画に基づいて都市計画マスタープランも見直しをしていくので、時代の潮流を踏まえて判断していく方針である。本当に農地を工業用地としてよいのかなど必要性について、その時点で適切な判断をしていく。可能性としては、市として示していくことについて、ご理解をいただきたい。

(千頭会長)

- ここに書いたからすぐに農地の転用が行われるということではない。県は農振農用地の転用を基本的には認めない。産業動向の変化については、劇的に変わるというご指摘もあった。
- 総合計画の土地利用構想のイメージは長期を含めて可能性のあるところを挙げておきたいという説明であったが、実際に転用するのかどうかは、個々のところで判断するとのことである。3人から同様のご意見が出ており、商工会議所からのご意見が重い。都市計画マスタープランを改訂する時に、総合計画に載っているからこうしますのではなく、都市計画マスタープランの中での議論が必要かもしれない。

(中村委員)

- 西尾は旧幡豆3町と合併したが、計画の中では8番とか幡豆地区の土地利用が削除対象になっており、中心市街地が市街化の中心となっている。3町は何らかの整備をしていかないと、どんどん過疎化するのではないか。
- 港の整備計画はまだ計画があまり載っていない。幡豆郡旧3町は道路などインフラ整備も遅れており、どんどん過疎化が進む気がする。合併効果が現れるような将来計画を策定していただかないと、名鉄西蒲線の廃止があるかもしれない。子どもの国もどうするのかということで、分散化を考えていけば優良農地をつぶさなくても何とか活性化ができるのでは。

(事務局)

- ⑧は長年開発したいとアプローチしてきたが、現実のニーズや評価としては産業系の立地には適さないということで改めていく。当然、子どもの国、3町の中のいろいろな資源、佐久島などを今以上に活用していく方向であり、そういった中で活性化と合併効果の創出と旧3町部分も振興を図っていきたい。

(千頭会長)

- 土地利用構想図については、よろしいでしょうか。ありがとうございました。
- では、議事で1から3について、市民モニターからもたくさんお意見をいただ

いており、ポイントを説明いただきたい。

(事務局説明)

- 1 基本計画の改正案について
- 2 総合計画審議会の意見対応について
- 3 市民モニターの意見対応について

(千頭会長)

- 全体の審議会での意見と西三河農協の受託部会のご意見、市民のご意見を踏まえて、資料1を整理している。それを踏まえた上での修正意見がありましたら。
- 前回ご欠席され、今日ご出席している植田委員から。

(植田委員)

- 子ども会の代表であり、子どものことを考えると、周辺の環境もかかわることであり、皆さまのご活発な意見をいただきたい。

(中村委員)

- 行政にお願いしているが、福地駅近くに県の養護学校が長年要望してやっと実現する。土地の確保も市が進めている。障がい者が学校を出てからのフォロー、ケアについて、授産施設などは民間が行っているが、行政も少しは支援をいただきたい。NPO、社会福祉法人と協議しながら、用地の確保を行っている。例えば、重度身体障害の施設は市内に民間による1カ所しかない。これから障がい者がゼロになるわけではなくエンドレスに続いていく。福祉施策は進めていただいているが、なかなか行政から指導がなく、民間から要望を出している。
- 市長との懇談の中で統廃合をする中で空き地、余剰地が出てくるので考えますということであるが、障がい者の親が亡くなった時に、グループホームなど生活施設など、多目的に預かることができる施設整備していただきたい。

(会長)

- 特に記述を修正するという事ではないですね。

(中村委員)

- 今後、そういったことについて事務方への意見として聞き取っていただきたい。

(名倉委員)

- 農政を取り巻く情勢はマスコミでもとり上げられているが、JAでは従来から地域農業の振興に取り組んでいるが、今はもっと積極的に進めている。
- 農家の方々との対話の機会を設けようということで、真剣に進めている。JAとしてもっと農業のことを積極的に考えてほしいと言われており、まだまだ私たちの取り組みがしっかり伝わっていないと感じた。具体的には地元で採れたものを消費者に提供しよう、産直ということに力を入れている。
- 優良農地を確保して、これからも地元で安全な物を消費者に提供していこうと考えている。昨年、農地法が改正されて、四車線、インターから300mの所の開発が緩和されてきた。その地域は優良農地なので、私の思うところとは相反

するような方向になっている。

(千頭会長)

○優良農地の確保に努めるという記述を追加していただきたいということである。

(鳥山委員)

○限られた時間の中では、市のグラウンドデザインで優先順位が高いものを明確にするべきである。優先度の高いことはしっかり時間を取る。重要なものの方角性をしっかり議論されるべき会議である。そういった中で、農業の問題、教育の問題。

○資料2-1、21、22に杉田委員、榊原委員から指摘がある市民病院については、相当大事な意思決定をする重要案件である。回答が市民病院の立場であるとこのようになっている。もう少しこの辺りをどうするのか、大問題と思うので案のようにお茶を濁していただければ困る。

(杉田委員)

○市民病院に対して24億円、本会計から出している。550億円の市の予算から5%ずつ毎年際限なく出している。現実には効果が見えない中で、さらに藤田学園が進出するのは大変な問題である。各事業3%、5%一律カットすることであるが、5%として25億円であり、ほかにやることがあるのではないか。喫緊の課題であり、この程度の文章で乗り切られたら、市民はたまらない。市全体の問題としてしっかり対応していただかなければ困る。

○民間的な発想をもっとしていかないと。みなさんタブー視している。ここは誰でも、市長でも手を出さないようになっている。そうではなく民間が問題を乗り越えて利益を出しているの、市としての今後の対応をもっと広く意見を集めて、対応を至急してほしい。学識経験者、民間で病院経営をやっている方もおり、真摯に受け止めてほしい。

(千頭会長)

○改革プランでは議論はされなかったか。

(事務局)

○病院の問題について計画の中で文章として書ける範囲は限られており、市長も早急に対応する懸案事項と認識している。いろいろなことも模索している。

○病院とも協議して、この案では物足りないというご指摘があるが、はっきりと言えることがなく、鳥山委員、杉田委員のご指摘は承知しており早期な対応については模索している。ほっておけない状態であることは認識しており、市長も本当にこのままでは立ち行かないという認識である。

(榊原委員)

○企業の観点からは思い切ったことが必要。今一番の問題は経営者不在の経営がなされているのが一番の問題である。これだけ赤字なら職員もある程度責任を負うことも考えないといけない。もっと真剣に統廃合を考えるべきである。随分前から指摘している。

○起債総額は100億を超えているのではないか。累積した赤字は、昨年24億円出しても赤字は残っており、報告は赤字が減っているとしている。その捉え方が全く違う。

○議会にも責任があるが、もっと収益が上がる部分、たとえば透析部分をやること、あるいは統廃合という声があったが、現実にはちっとも進まない。お金がないのであれば、早くメスを入れないと市全体の経営が成り立たない。強い形で臨むべきである。

(和田委員)

○サラリーマンをやっていた時、病院の立て直しをやった。この病院には何を求めるのか、総合病院か基幹病院か。何かあった時、私は更生病院に行く。総合力では、西尾市民病院に命を預ける気にならない。風邪ならば行くが、町の病院で済む。

○当時、有名な先生を高額の年俸で来てもらい、そうすると先生をしたって札幌から名古屋まで患者が来る。そうすると回りが活気づいて、5年を要したが、立ち直って、ビルも建て直した。民間はつぶれたら給料がなくなるので、それぐらいのことは考える。

(千頭会長)

○市民病院が大きな課題ということとよく分かるが、昨年度の改革プランで今の議論はされたわけである。

(事務局)

○プランの中では様々な選択肢が考慮されている。

(千頭会長)

○ご意見がたくさん出るということは改革プランが出たのにかかわらず甘いということであるので、総合計画の記述としては35ページでどうか。ある市民病院は累積赤字が数百億円あったが、9年ぐらいで短年度黒字にして、工夫することで累積赤字を減らしてきたとは聞いている。

○35、6ページの地域医療では、プランに基づいて経営の健全化を図りますという記述であり、一旦はこれでよろしいか。皆さんからのご指摘については、きちんとしかるべき部署に伝える必要がある。西尾市民病院は、二次医療を担い、かかりつけ医との機能分担は考えるでしょうね。

○では、ご指摘のことは議事録としてきちんと残して、記述としては異論がなければ35ページのものとする。

(榊原委員)

○生涯学習では、ふれあいセンターの問題があり、コミュニティは大事であり小さな地域で利用できる施設が必要である。以前は町内で任意で作ったものに補助金を出したが現在はカットとなった。大きなものは、ある程度できているので、小さいところで任意で作る方がコストも削減することができるが、立ち消えた意味があるのか。

(千頭会長)

	<p>○具体的には公民館のことか。 (榊原委員)</p> <p>○補助金を出して、地域でコミュニケーションの場を作るということであったが。 (事務局)</p> <p>○地域の集会施設のことである。 (榊原委員)</p> <p>○町内で自主的に作るのをもう少し奨励したらどうか。 (事務局)</p> <p>○耐震の補助は現在もある。</p> <p>○ご意見があったことを担当課に伝え、コミュニティということは市全体では必要と記述をしている。補助金は方向展開があり、それは逆行というご意見と承っておく。 (榊原委員)</p> <p>○街路樹は意味をなしていないところが多い。街路樹として適さない、もたない木もある。西尾の街路樹を決めて、たとえば楠と決めて植えていくのが良いのではないか。地域の意見を聞くことも大事であるが、専門家も見ながら街路樹としての機能を果たすものを作ったらどうか。 (千頭会長)</p> <p>○これもご意見として承って、ほかにご意見は。 (辻村委員)</p> <p>○体育協会として、スポーツ公園の話が何年も続いているが進んでいない。今の総合体育館の場所で良いのか、違う地区でスポーツ公園を整備するのか、長年の課題となっており強くご検討願いたい。 (千頭会長)</p> <p>○32 ページのところでは構想づくりのための調査研究を進めますと記述いただいているので、このところで。 (千頭会長)</p> <p>○老人クラブの井関委員。 (井関委員)</p> <p>○高齢者福祉のところでは老人クラブの年々会員数が減少したり、伸び悩むと書かれている。会の大きな問題ではあり、いろんな対応を考えていかなければならないが、市の援助も啓発活動のための機関紙の助成などいただけると、活動の内容が広く伝わっていくのではないかと希望も持っている。要望事項は毎年出しているが、検討をいただきたい。 (千頭会長)</p> <p>○連合会としてこれからクラブに入っていただきたい年代の方々の意見を聞いたことはあるか。 (井関会長)</p> <p>○その辺のところもやっていきたいと考えている。</p>
--	---

(山崎委員)

- 女性目線の意見は市民協働のところに書かれているが、今後の課題 65 ページで、計画策定と合わせてと書かれている。今年度プランの見直しをされていくが、市民協働ではこううたっているが、たとえば防災 58 ページで避難所運営に参加する女性を増やしますとは書いてあるが、他のところで少し女性に対する意識を入れてほしい。リーダーの育成とも書いてあるが、リーダーの内訳では女性の割合が少ないので、こういうところでもう少し女性を入れていくとうたわないと入らない。
- 女性活躍推進法に基づく何かについて、産業や雇用のところに入れてほしい。そういうところには、女性目線が入っていない。採用や企業も女性活躍推進法などについて入れてほしい。
- 子育てのところ 24 ページで施策の内容③子育てサークル活動の支援を行うとともに記述している。ばらネットの中にも子育てサークル協議会が入っていたが、来年度から協議会の構成メンバーが減り、昔の婦人会に入る人がなくなっていくなど、子育て支援サークルの会員も減り、会がなくなっていく。子育て支援センター、ファミリーサポートは存続しているが、自主的な活動に人材の育成がなされていない。私達と同じ世代は残っていくが、若い人が残っていない。拾い上げられていかないので活動が持続していかない。拾い上げていく活動、人材を育成していく活動が必要ではないか。
- コミュニティについても半田市の南粕谷の視察をしたが、高齢者が集まる場所という施策について意見が出ていた。市民モニターから独居老人をサポートしていく施策という意見もあったが、若い世代と年寄りと中間層と、上手にコミュニティの活動拠点を使っている。西尾市ではふれあいセンターは活用されているが、一体化していないので、三世代が交わることができる活動拠点となるように、ふれあいセンターは自由にふれあえる空間にしていかなないとコミュニティの活性化にはならない。そういうものがコミュニティにあると活性化につながる。

(千頭会長)

- 何点か、女性の目線ということで記述いただけると、市民協働、コミュニティ、子育て、企業のところというご意見が出た。

(事務局)

- 女性活躍推進法で記載というご意見をいただいたが、女性ということを書けるところがあれば記述する。産業や雇用も女性が重要になってくるので、今一度、対応が可能なものは追加する。
- ふれあいセンターで三世代交じり合える、ふれあえる拠点となるものが必要というご意見もあり、どういう書き方が良いのか子育てのところを含めて可能な対応を考える。

(千頭会長)

- 企業はある大規模のところではダイバーシティで劇的に変り女性も雇用してい

	<p>る。南粕谷ふれあいハウスは、行政には一切頼らず、全て地元で運営している。</p> <p>○西尾は若いお母さんの子育てサロンは減っているのか。</p> <p>(山崎委員)</p> <p>○各幼稚園・保育園での子育て支援センターが充実してきて、個々に活動していた活動は先細りしたかもしれない。それをなくさないでほしいという意見もあり、そういうところの活動も市が支援すれば。15団体あったのが4、5団体になってしまって、来年、再来年には消滅、そういった実態も聞いていただきたい。</p> <p>(千頭会長)</p> <p>○女性の会のような既存の組織への参加率が減っているが、若いお母さん方が自分達で子育てをする活動は盛んになっている気がする。</p> <p>(山崎委員)</p> <p>○刈谷市の方の催しでは西尾市のサークルが参加していたが、市の皆さんはあまり知らないと思うので、人材を拾いあげていく取組みが必要である。</p> <p>(鳥山委員)</p> <p>○観光のところにも女性のことをぜひ入れてほしい。マーケットそのものも女性の方が財布を握っており決定権がある。女性目線で参画してプランについて参画して主役になってほしい。</p> <p>(千頭会長)</p> <p>○言葉として、女性と入れるのが良いのか、中身で配慮すればよいか。</p> <p>(鳥山委員)</p> <p>○施策のところに入れていただきたい。観光協会も女性の組織を作っていないが、今後担当と調整する。一番お金を使う人がマーケットターなので、そういう人達が計画を作ると良いが、案外と男性が商品開発しているので。</p> <p>(千頭会長)</p> <p>○若い世代も含めてということで、記述が可能か事務局で検討いただきたい。</p> <p>(井関委員)</p> <p>○老人クラブの正式名称は、西尾市老人クラブ連合会であり、印刷する時に言葉が揃った方が良い。学校教育の最後はPTAやおやじの会、老人会となっているが、語句的なことも統一いただきたい。</p> <p>(千頭会長)</p> <p>○きちんとチェックをしましょう。おやじの会はだいじょうぶですね。</p> <p>(井関委員)</p> <p>○おやじの会は、学校の中である。</p> <p>(和田委員)</p> <p>○山崎委員ご指摘の子育てについて、福祉会館に相談所があるが、残念ながら利用されていない。組織としてはある。1歳児以下のお母さんが責任を持って連れてきて、遊ばせて、ブラジルのお母さんも来て遊んでいるのが、福祉会館の中になる。</p>
--	--

- 子ども達のためには、結婚しないと子どもができないということで結婚相談所がある。市の財政、将来を背負って立つので、これこそ知恵を貸してほしい。7名の相談員がいるが人が来てくれない。
- ぜひ、会議所、農業の方々がお見えなので、知恵を貸してほしい。内部で議論していても良い知恵が出てこない。工場の人、自営業の人や、食品営業の人は仕込み・市場に行ったりと時間がない。とにかく知恵を貸してほしい。  
(千頭会長)
- 資料1について、大事なご指摘をいただいているが、これから5年間の全体の計画、個々の計画は中身の議論を進められていると思うが、一番上位に立つ5年間の市の方向性として大きく気になることは。  
(中野委員)
- 専門家ではないので町内会長という形での参加であるが、病院についても今IT化でものすごく進んで医師免許が取れるぐらいのロボットができると、先生の負担も減ってきている。ロビーでのお客さんの対応もサービスが良い。先進的な形の情報については、それを拾い上げて検討していただくとよい。
- 有名な先生を雇うことも良いが、病院についてはドクターXで先週放映された形が進んでいる。人件費が浮き、浮いた分を投下して問題解決も図れると思う。  
(千頭会長)
- 町内会は現場でご苦労されているが、病院以外の箇所はいかがか。  
(中野委員)
- 観光においてでも、あらゆる分野に活用できると思うが、いかがか。  
(千頭会長)
- 実質的にご意見をいただけるのは今日が最後かと思うが、大事なポイントで必ず反映した方がよいことがあれば出していただきたい。  
(和田委員)
- 戦後の団塊の世代はやがて支えていただくことになる。西尾の原状として、介護士を募集しても既存の病院の介護施設から来る。すると、元ではいなくなっていくというように人材供給が非常に少ない。ニーズがあっても、人材がないことが懸案事項である。
- 給与が安いからいけないと言われる。病院も経営していく必要があり、コストがかかる。この人材をどうするのが目の前の課題である。入りたくても入所できない人が多く、われわれのみではなく、総合的に考えていただきたい。  
(千頭会長)
- 看護学校は、奨学金などの優遇措置がある。
- 見聞きしていると、海外、特にベトナムからたくさん人を呼んで、日本語を教えながら介護に就いていただくことが大きな流れになっている。  
(鳥山委員)
- 第1回の会議から近藤部長が替わられたが、庁内で調整する大事な人なので最後に決意をいただきたい。

(杉浦委員)

○中野委員のご指摘のように、AIの研究を含めて事務の簡略化、職員数の削減、窓口業務も含めて、病院のこともそうだが市全体として考える危機感が感じられないのは残念。市としての全体の危機感、夢をうたうのも大事であるが危機をどう解決していくのか決意表明がなされていない。三つのメガバンクも二つになるのではないかという時代に、人があふれているような窓口は、三世代ぐらい古い体制を継続していることになる。これがおそらく、病院経営、窓口業務の実態ではないが、そういったところに危機感をうたうことも将来にとって、あの時は転機であったというように大事ではないか。研究していくことも含めて、文言としてうたうべきである。

(千頭会長)

○昨年度せっかく改革プランを検討されたが、病院で検討され、病院外の間は素人なので口を出すなということかもしれないが、市民全体にとって共通の課題である。市民病院のみで完結できれば良いが、できないから課題がある。

(山崎委員)

○西尾市に若い人もいるが産科・産婦人科は以前、市民病院が満員になるぐらい利用されていたが、産婦人科医がいなくなって、利用がなくなった。西尾市内では産婦人科は1カ所しかなく、西尾の人が外から戻って、碧南に通院している。碧南に近い人はみんなそこへ行く。要は若い世代がいても市民病院に通うことなく、よその市の病院に行く。総合計画は、夢も少し含んでほしい。子どもを産むためには、地元で産んで、育てていくという面について、夢のある病院計画もほしい。

○防災について、矢田小学校区は再来年度児童数が千名を超えるが、そこへどうやって避難するのかと思う。もっと防災計画を密にしないと、地震があった場合、ここに避難するマップを個々の住民が分かっている必要がある。全員が矢田小学校に避難することは困難である。そこから上がった平坂中学校はもっとパンクする。この地域の人はこちらに避難しましょうと、防災計画を綿密に立てていかないと避難することが難しい。

(千頭会長)

○自主防災組織はしっかりしているのか。

(山崎委員)

○しっかりしていない。小学校の子はどこに避難するのか分かるが、高校生のいる家庭になるとどこに避難するのか、町内会はずは自宅ということであったが、自宅がつぶれたらどうするのかと考える。

(鳥山委員)

○結論としては、避難所には人数的に避難できない。自宅が大丈夫な場合は自宅が良い。みんなが避難するという概念を市が変える必要がある。避難所へは10%ぐらいしか避難できない。

(山崎委員)

- 支援物資も避難所に届かないということを皆さん知らない。
- ばらネットでは指定のある場所に届くと聞いたが、個々にはそこまで取りにいかないといけないという、そういうことを徹底する、ち密な伝達を市民に分かっていただくような文言がいる。
- (千頭会長)
- それぞれの団体が担当課とやりとりしている内容の延長のご意見、それ以外のご意見もあるが、総合計画の中で修正できる意見と個々の計画で注意するものと意見を仕分けしていく必要がある。普段からの行政と団体とのコミュニケーションの問題もあると思わなくもない。担当課とご検討いただいて、大きく文言を変更することはないかもしれないが、中身のところで対応すべきこともある。
- 次回、第3回までの間の進め方は、今日のご意見を受けて資料2-1のように対応を検討するのであれば、できれば事前に皆さまにお送りして、次回は議論した後に市長に答申ということである。
- (事務局)
- 本日いただいたご意見は資料2-1のように整理して計画に反映すべきは反映していく。会議開催は時間がないため、その結果については会長と相談して調整したものをパブリックコメントに出す。
- 皆さまにもその対応についてご報告する。万が一、不足なこと、趣旨が違うということであればパブリックコメント期間中にご意見をいただくことも可能である。
- 今日のご意見を踏まえて、修正したものを議会にも12月中旬にも報告してその後、パブリックコメントを行い市民から1か月間意見をいただく。
- パブリックコメントを踏まえたものを1月29日の審議会でお知らせする。
- (千頭会長)
- 12月のパブリックコメントの案については、私と事務局で調整することによるしいか。さらにご意見があればパブコメとしても出していただきたい。
- 今日の審議会は以上と思います。
- (事務局)
- 次回の審議会は、14時から予定している。
- (会長)
- その後半で市長にお越しいただく。
- (近藤部長)
- 今日は活発なご意見、さまざまなご意見を各分野からいただきまして、大変ありがとうございました。
- ご意見は事務局が受けとめて、計画に反映できること、今後進める中で十分に認識していきたい。
- 病院について厳しいご意見をいただいたが、改革プランを作ったわけですが、今年度11月には会議を開き、様々な選択肢を関係部課長で議論しました。真剣

	<p>に動き出そうとしていますので、ご理解いただきたい。</p> <p>○防災に関しても、津波が来た時に漠然と北へということであったが、各地域防災会長、地域を回って、どこに行ったらよいのか、何人ぐらいになるのか、しっかりとシミュレーションをして、その動向を注意しながらご意見いただきたい。</p> <p>○本日、農地の関係からはじまり、貴重なご意見をいただきました。市長も皆さま方のご意見を市政に反映したいという意向です。本当にありがとうございました。</p>
--	--